

日本医師会第17回男女共同参画フォーラム メインテーマ「医師の働き方改革に寄与する 男女共同参画を目指して」



沖縄県医師会女性医師部会委員 大湾 勤子

第17回男女共同参画フォーラム プログラム

日時 令和5年5月27日(土) 13時30分～
会場 都ホテル四日市 4階伊勢の間
主催 日本医師会／担当 三重県医師会

メインテーマ
「医師の働き方改革に寄与する男女共同参画を目指して」
総合司会 三重県医師会常任理事 今野信太郎

【内容】

開会 三重県医師会副会長 馬岡 晋
挨拶 日本医師会会長 松本 吉郎
三重県医師会会長 二井 栄
来賓挨拶 三重県知事 一見 勝之
四日市市長 森 智広

基調講演「機会と評価の平等が共同を創る」
座長 三重県医師会会長 二井 栄
講師 井村屋グループ株式会社取締役
取締役会議長 浅田 剛夫

報告

1. 日本医師会男女共同参画委員会
委員長 小泉ひろみ
 2. 日本医師会女性医師支援センター
日本医師会常任理事 神村 裕子
- 休憩 (10分)

シンポジウム

座長 三重県医師会理事 田中 淳子
コメンテーター 日本医師会副会長 角田 徹

1. 「医師の働き方改革と三重県認証
「女性が働きやすい医療機関認証制度」について」
三重県立総合医療センター院長 新保 秀人
2. 「男女平等に働ける工夫」
亀山医師会豊田クリニック 入山紀美子
3. 「医師の働き方改革と男女共同参画
～男性医師(夫、父)の立場から～」
山形大学医学部眼科学講座教授 杉本 昌彦
「医師の働き方改革と男女共同参画
～女性医師(妻・母)の立場から～」
三重大学大学院医学系研究科血液・腫瘍内科学准教授
杉本 由香
4. 「女性医師のワークライフバランス」
三重大学医学部附属病院産婦人科助教 金田 倫子

総合討論

次期担当県医師会会長挨拶
香川県医師会会長 久米川 啓
閉会 三重県医師会副会長 田中 孝幸

2023年5月27日、三重県四日市市で第17回男女共同参画フォーラムが開催された。コロナ禍のために三年延期されて四年ぶりの対面開催となった。(プログラム参照)

日本医師会会長松本吉郎氏によるご挨拶では、「2024年には医師の働き方改革が法的に始動するが、医療の質を決して落とすことなく勤務管理をすすめて、誰もが働きやすく活躍できる現場になるようすすめていきたい」と力強いお言葉があった。

三重県医師会会長、来賓の三重県知事、四日市市市長のご挨拶のあと、「機会と評価の平等が共同を創る」というタイトルで、三重県のご出身の井村屋グループ株式会社取締役会議長浅田剛夫氏が基調講演をなされた。井村屋は三重県津市で1896年に創業(126年)、1947年に会社を設立して現在76年となる。おなじみの「あずきバー」は50年の歴史があり、お菓子や冷凍食品など商品を思い浮かべるが、2021年7月にはテロワールに根差した清酒事業を新たに展開している。2023年のIWC(国際ナショナル・ワイン・チャレンジ)SAKE部門「純米大吟醸酒」部門で、初参加で金賞を受賞したのがとても嬉しかったと話され、会場からは拍手があがっていた。企業の理念は「特色経営」「不易流行」「おいしい!の笑顔をつくる」であり、「商品こそわが命、人こそわが宝」をモットーに「人材の人財化」に取り組んで来られた。男女の特性を相互に理解したうえで平等に機会を与え、正当に評価し、思い切って任せるリーダーの心が社員の努力に通じる—入口は平等、努力によって出口は変わると男女共同参画を率先して実行して来られた。激しい社会変化の中で、

企業を「継承」させるためには、持続的な成長を図る創意実践を続けていきたいと締めくくられた。

続いて日本医師会男女共同参画委員会の活動報告、ならびに日本医師会女性医師支援センター事業より取り組みについて報告があった。委員会に対する令和2・3年度諮問「地域における男女共同参画の推進」に対する答申の一つに、「無意識のジェンダーバイアスが、キャリア形成を行う上で直面する最も重要な課題である。自身のキャリアデザインを常に意識し、社会に対する責任感と存在意義を意識し続けてほしい」ことが挙げられ、具体的な支援としての日本医師会女性医師バンクやハンドブック、教材動画の紹介があった。いろいろな取り組みがなされており、支援の周知と働き方の意識づけを継続していきたいと感じた。

シンポジウムは「医師の働き方改革と男女共同参画」の視点から5人の講師が登壇した。

1 医師の働き方改革と三重県認証「女性が働きやすい医療機関」認証制度について

三重県立総合医療センター院長 新保秀人氏

1948年設立病床数419床の急性期病院で、「職員が働き続けたいくなる病院づくり」を目標に院長直轄のチームを作り「医師の働き方改革」に取り組んでいる。対策：①入退館システム整備、端末ログアウトの徹底。②時間外勤務の週ごとの把握。③28時間超連続勤務、9時間インターバルの把握。④研鑽の内容周知。⑤当直明けは正午までの帰宅。⑥検討会、会議開始時刻の見直し。結果：①入退館時刻が確認可能となり、端末のログアウトは徹底された。②時間外勤務の把握により各診療科と個別に対応が可能。③当直明けからの連続勤務の減少、特に若手医師の時間外勤務減少につながった。④検討会の就業時間内の開始、院内会議の時間内開始が実行された。また直近5年間で職員数の増加を図って、時間外数削減に寄与したが、最近のコロナ対応でその効果は減少した。

平成27年度に全国に先駆けて、三重県の公的な位置づけによる「女性が働きやすい医療機関」認証制度が創設された。保育施設整備などの職場環境、妊娠や出産、子育て時に利する勤務時間管理などの人事管理が審査される制度である。同院は令和元年、4年度に認証されている。医師の働き方改革と男女共同参加のいずれの取り組みも院長の強いリーダーシップのもと進められ成果を上げていた。

2 「男女平等に働ける工夫」

亀山医師会豊田クリニック 入山紀美子氏

今年82歳になられる入山氏は、昭和41年三重県立大学医学部をご卒業され、現在もクリニックで現役医師としてご活躍である。「三重医報」に令和3年9月から令和5年4月まで「老女医のたわごと」がシリーズで掲載され、その資料を参考にお話になられた。ご自身は大学院4年生のときに婚約と同時に、医局に夫婦がいるのは好ましくないと言われ辞めさせられ、結婚後実家の病院で働き、現在のクリニックを引き継いで地域医療に貢献された。現在は息子さんが継がれている。医師免許交付から現在に至るまで、女医として働くことの厳しさと楽しさについて、様々なエピソードを交えて話され、女性の感性を信じ常に向上心を忘れないように、また子供を持ちたい女医には身近な人の助けを借りてとメッセージを送っていた。

3 「医師の働き方改革と男女共同参画

～男性医師（夫、父）の立場から～

～女性医師（妻、母）の立場から～

山形大学医学部眼科学講座教授 杉本昌彦氏
三重大学大学院医学系研究科

血液・腫瘍内科学准教授 杉本由香氏

三重大学医学部で同級生であったお二人が夫婦として家庭を築きながら、眼科医、血液内科医として、それぞれ医師という仕事にやりがいを見出しキャリアアップを継続しつつ、一方、ワークライフバランスをどのように保っているか、それぞれの立場から講演された。

昌彦氏は、女性医師が多い眼科医局の働き方改革に取り組むうえで、業務内容を見直すとともに各自の求めるもの（たとえばキャリア/お金/手術症例など）を確認して、負担を別の形で補完するように試みた。取り組みの根幹には、お互い様という意識の醸成が大切だと述べた。山形大学眼科学講座教授として今年より新天地で、新たに医師の働き方に取り組んでいる。

由香氏は、結婚、出産、育児を経験しながら、自身の医師としてのキャリア継続について振り返りつつ、夫の昌彦氏の山形大学への異動に伴い、自身のキャリア継続について再度考えることとなった。男女共同参画と医師の働き方改革は目指す方向が同じで、「プライベートの大切さ」、「働きやすさに加えて、長く仕事を続けるためには働きがいも重要であること」、「ライフステージにあわせて自分の目標を設定し、その実現に向けて話し合いながら協働していくことの大切さ」を伝えていた。同僚の生の声を聞きながら、互いに尊重し合って家庭もキャリアも維持しているご夫婦に感銘を受けた。

4 「女性医師のワークライフバランス」

三重大学医学部附属病院産婦人科助教

金田倫子氏

日本産婦人科医会のアンケート調査報告で産婦人科女性医師は、2022年は全体の47.7%を占めている。そのうちの39%が、妊娠・育児中である現状を示した。三重県産婦人科の取り組みとして、県内の分娩取り扱い二次施設を2011年に10施設であったものを2023年には

7施設に集約化し、施設当たりの医師の増員が可能となったこと、また三重大学産婦人科医局で女性医師のクリニックを設立したことが報告された。働き方改革として、人員確保を試みながら働きやすい環境づくり、個々の意見、多様性を尊重しつつ、やりがいを重視してキャリア形成ができる環境を作る努力をされていた。分娩取り扱い施設の集約化や医局による女性医師のクリニック開設は画期的な報告であった。

5人の演者の発表のあとの総合討論では、夫婦がともに勤務医である場合、配偶者の労働時間の調整は医局を超えて協力できる体制にあるかどうか、分娩取り扱い施設の集約化や医局によるクリニックの開業のノウハウについてなどの質問があった。詳細は割愛するが、研修施設は若い医師を育てる雰囲気醸成し、また社会に対して地域医療を守るために医師の働き方に理解を求める働きかけが必要であるとまとめられた。

最後に本会の次期担当香川県医師会会長が、医師の働き方改革と男女共同参画の推進のために香川でまた会いましょうとご挨拶され、閉会した。

「医師の働き方改革に寄与する男女共同参画」は、男女を問わず、若い医師もベテランの医師も働き続けられる環境整備を創意実行していくひとつの取り組みであることを再確認した。今回はあずきバーがより身近に感じられ、「人材の人財化」を心がけ、「経営」を「継承」という言葉が心に残った。

【映像配信】第17回男女共同参画フォーラムのご案内

日本医師会

動画 URL :

<https://www.med.or.jp/doctor/female/forum/001860.html>

動画の複製や転載等は禁止いたします。



印象記



理事 稲富 仁

第17回男女共同参画フォーラムが三重県四日市市で開催された。

今まさに議論されているLGBT法案や来年度からスタートする医師の働き方改革に関して、合わせて考えていこうと、メインテーマは「医師の働き方改革に寄与する男女共同参画を目指して」であった。

基調講演は大好きな人が多いであろうアイスのあずきバーで有名な井村屋グループの取締役会議長の浅田剛夫氏により「機会と評価の平等が共同を創る」という題で講演された。世界で幅広く食品業を発展させていく中で、早くより商品開発や工場長などに女性を多く起用して成功を収められており、興味深いエピソードも交え飽きさせない内容であり大会社のトップは違うなと感じた。

後半は5人の先生方によるシンポジウムであったが、各々違う立場や視点からの発表であり、今回のテーマを考えるのに大切な内容であると思えた。

三重県立総合医療センターでは早くから働き方改革や女性が働きやすい環境を整備することに成功しており、病院長としてかなり細かいところまで介入し改革した経緯や具体的な取り組みについて説明頂いた。

80歳超で今でも元気にご活躍中の入山先生はまさに男女差別が激しく、医学部には女性は一握りしかいなかった時代を生き延びてこられており、まさにその生きざまについて話された。地元の医師会雑誌に連載されている「老女医のたわごと」(8)も大変面白く、なんとなく勝手に瀬戸内寂聴さんとイメージが重なった。

山形大学医学部の眼科の杉本教授、三重大学血液・腫瘍内科の杉本准教授ととても優秀なご夫婦により各々の立場でお話しされた。夫婦・子育て・臨床・研究・海外留学などすべてそつなくこなされているお二人。講演では話せないような問題もあったはずだと思いながら聞いていたが、絶妙な表現で話され、お互いを尊重しあっているのが伝わり、この優秀スマートな印象のお二人のファンになりました。

最後は若手女性医師による活躍。三重大学産婦人科医局で設立した女性医師主体のクリニックについてのお話があった。

いつも座学続きだと居眠りしてしまうのだが、珍しく最後まで居眠りせず飽きずに聞き入ることが出来た。

帰りの道中、桑名駅で途中下車し、今が旬の蛤料理を堪能。また、偶然見つけた植物園：なばなの里へ入場した。ものすごい数の満開のペゴニアに囲まれ天国ってこんな感じなのかも癒しのひと時であった。